

令和2年度事業報告書

公益社団法人

全国競輪施行者協議会

事業概要

令和2年度の我が国の景気は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、持ち直しの動きがあったものの依然として厳しい状況が続いた。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年2月27日からすべての開催が無観客となった。4月7日には、政府から緊急事態宣言が発令されたことにより、日本選手権競輪をはじめ開催中止が相次いだ。

5月29日に「新型コロナウイルス感染症感染拡大予防ガイドライン」を策定し、感染症拡大防止策を講じたうえで、6月から順次、有観客開催を再開した。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から1開催あたりの選手数を減らす等、開催枠組の変更を行い、7月からはGⅠ、GⅡ、一部のFⅡを除いて7車立9レース制で実施した。10月以降は、GⅠ、GⅡ、GⅢは通常の開催枠組で開催し、FⅠ、FⅡは7車立12レース制で実施した。

こうした中、本年度の競輪車券総売上高は、新型コロナウイルス感染症による影響があったものの、電話・インターネット投票の売上増加により、7,499億9,019万6,400円で前年度より約895億円増加、対前年度比で113.6%となった。

グレード別の対前年度比で見ると、FⅠではナイト競輪の開催増加により108.6%、FⅡにおいてはミッドナイト競輪の売上増加やモーニング競輪の開催増加により155.8%となった。GP・GⅠ・GⅡは日本選手権競輪開催中止の影響により前年度比95.2%に留まり、GⅢにおいても3開催が中止となった影響により89.2%となっている。

一方、平成28年6月に策定した「競輪事業の持続的発展に向けた中期基本方針」が令和2年度に最終年度となることから、次期（令和3年度から5ヵ年）の中期基本方針策定に向けた検討を行い、令和3年3月、競輪最高会議において中期基本方針が決定された。

7年連続で前年度を上回る総売上高となったが、今の状況に甘んじることなく、新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底を図りつつ、中期基本方針のもと、令和7年度の売上目標1兆円を達成できるよう努力していく必要がある。